

## デジタル義歯の現状と課題

やまざき歯科医院 山崎史晃先生(院長)

近年、若手歯科技工士の減少が顕著で、技工士不足が深刻化しています。特に、有床義歯の製作は技工士にとって採算が合わない領域となり、その結果、義歯製作に従事する人材も減少しています。

この問題に対処するには、作業効率の向上と労働環境の改善が不可欠です。その解決策の一つがデジタル化です。当院では、2018年に総義歯の造形が可能なミリングマシンを導入し、2020年には3Dプリンターを追加導入しました。これにより、高精度なデジタル義歯を短時間で安定的に製作することが可能となりました。特に、導入した3Dプリンター(cara Print 4.0)は、短時間で高精度な3Dプリントを実現し、24時間以内に安価で高品質な義歯を提供することで、患者満足度が大幅に向上しました。デジタル義歯の導入により、印象体を直接スキャンすることで石膏模型が不要となり、製作時間が従来の1/6に短縮されました。さらに、3Dプリントによる試適義歯を患者が実際に持ち帰って使用し、そのフィット感を確認した上で最終義歯を製作することで、患者との信頼関係も向上しています。また、高精度な義歯により、調整回数的大幅な減少というメリットも得られています。

一方で、初期投資額が高額であること、そして保険適応外であることがデジタル技術の普及を妨げるハードルとなっています。今回の講演では、当院がこれまでに経験したデジタル義歯導入の実績を共有し、直面した課題やその解決策について皆様とディスカッションしたいと思います。